

庁議の概要

開催日 平成20年5月19日（月）

◎項 目

- 1 「学力向上・いじめ問題等対策計画」策定に向けて【教育委員会】
- 2 鳥インフルエンザへの対応について【危機管理部】
- 3 その他

◎内 容

- 1 「学力向上・いじめ問題等対策計画」策定に向けて【教育委員会】

教育委員会より資料を配布のうえ概要説明があり、意見交換を行った。

【説明概要】

- ・ 「自ら学ぶ力を育てよう」という題名の「学力向上・いじめ問題等対策計画」の策定に向けての中間的な取りまとめを行った。
- ・ 昨年の全国学力・学習状況調査で、高知県の学力は全国平均より低く、特に、中学生が低かった。その他にも、いじめや不登校、あるいは暴力行為等が多発しており、こうしたことに対応していくためには、従来のままの対策よりもっと検討を深めて、思い切った対応をしていくべきではないかという知事の思いもあり、当初予算は暫定予算のような形になっている。
- ・ この計画を取りまとめて、急がれるものについては、次の議会に補正予算として提案をする。あるいは、お金が足りないもので、直ちに取り組むべきものは取り組んでいく。また、補正に間に合わないものは、遅くとも来年度の当初には組んでいくといった形で進めていきたい。
- ・ スケジュールとしては、5月にこの中間的な取りまとめを行い、これを県民の皆さまに公表し、さまざまな意見をいただいく。そして、7月議会までには、この計画の取りまとめを行い、強力な施策を打っていききたいと考えている。
- ・ また、3月には、教育振興基本計画（仮称）を策定する予定である。このため、さまざまなデータや具体の案などを県民の皆さまにお示ししながら、地域の懇談会を4ブロックで行っていききたいと考えている。それ以外にも、学校や地域の教育委員会、さらに保護者、地域の方々ともできるだけ意見交換を行い、この計画を取りまとめていききたいと考えている。
- ・ 「教育改革の成果、課題、今後の方向性」として、「学校における取組への支援」ということで、大きく分けて「学力向上対策」と「いじめ・不登校等対策」として取りまとめている。特に、力を入れなければならない学力向上対策は、「児童生徒の基礎学力の定着と学力の向上」、二番目として「教職員の指導力の向上」、三番目として「就学前の取組」が重点的にやっていくべき項目だと考えている。
- ・ また、大きな二番目として「家庭における取組への支援」、大きな三番目として「地域における取組への支援」という形で取りまとめを行っている。
- ・ 特に、「就学前の取組」という所では、中学の学力の問題は小学校時代に、小学校の問題は就学前の問題にもさかのぼる。この「就学前の取組」は、子育て支援、あるいは働く母親の支援という意味も含めて、県としてはここを従来よりも前面に押し出して対応策を講じていききたいと考えている。
- ・ 以降、「いじめ・不登校等対策」、「家庭における取組への支援」、「地域における取組への支援」という項目

で取りまとめをしているが、これはまだ中間的な取りまとめなので、今後の意見交換や庁内の意見もいただき、7月の初めを目途に取りまとめを行い、政策を打っていきたい。

- ・ 特に、今の段階で課題として考えているのが、学力向上対策について、個別・具体的な対応、あるいはその類似的、特別なものに対する対応が、どうしてもメインとなっており、全体的な底上げ対策がまだ不足をしていると考えている。現在、教育委員会の中で議論を行っているが、7月までにはもっと新たな施策ができないか検討していきたいと考えている。遠慮なくご意見をいただければありがたい。

【主な意見】

- ・ 児童生徒の基礎学力という話について、学校現場の反応はどうか。
 - 昨年のテストの結果が非常に悪かったということで、これから何か手を打っていく時には、一つの変り目のデータが出たのではないかと認識している。色々な意見もあるが、全体としては、「いくら何でも、このままじゃいけない」という空気が大分広がってきたと感じている。
- ・ ただ単に、「管理が厳しくなった」といった受け止めをする雰囲気があるようにも聞く。せっかく教育委員会が一生懸命取り組んでいることをどうやって学校現場にうまく伝えていけるか。
 - 県の教育委員会が何か言うと、教職員の中には、「また教育委員会が上から管理して押し付けてくる」というふうに捉える空気が一部にあることは確かである。ただ、以前よりは少なくなっていると思う。
こうした点を多少意識して、あえて「学校における取組への支援」という項目を入れ、「子どもたちを育てているのは学校現場です。だから、学校現場が活性化し、モチベーションが高くなるようにしないといけません。県教委は、それを確実に支援します。しかし、支援するからには成果を求めます。」というような言い方をあちこちでしてきている。
- ・ 小学校の学力を語るとき、塾の力があるのではないか。現実にこれだけ塾に通っている。
 - 教育関係者の中でも、いろんな意見があるが、小学校が大体全国平均並みなのは、私学を受験しようとする児童が塾へ行く。そのことで、小学校は学力を保っているのであって、学校がそこまでできているのではないという意見もあるし、他方で、中学校と小学校を比べれば、結構、小学校は細かいところまで手を足している。はっきりとしたデータはないが、ペーパーテストの学力については、塾が引っ張っている面があると考えられる。
ただ、誤解のないようにしたいが、私立中学の生徒が抜けるから中学校の学力が低いという見方がある。学力テストとは別に行っている到達度把握検査の結果では、新中1（中学校に入った時）で少し落ちている。これが、中1の終わり、中2と、かなり落ちこんでいる。つまり、中学校に入った時は確かに私学へ抜けるので、少しその平均的な学力は落ちているが、その後、どんと落ちている。このことは、中学校の教育力に問題があると言ってもいいと考えられる。ここが問題である。
- ・ 因果関係は難しいだろうが、全国の学力テストの結果で、高い県と低い県に共通する傾向はあるか。
 - 経済的な状況が厳しくても、ちゃんと成績をとれる県もある。経済的な状況が足を引っ張っていることは確かだが、それが全体例ではない。一番はっきりしているのは、家で勉強しているか、していないかというデータと学力がぴったりと一致しているということである。
- ・ 「校長先生がすごくやる気がある学校は学力が高い」と言う人もいる。要するに校長先生の体質によって、部下の先生方の気持ちも違ってきて、学力にも違いが現れてくるということである。校長先生の対策が大事なのではないか。
 - もちろん、どんな組織でもトップがきちんとしていて、組織を掌握し、ベクトル合わせができていれば、その組織の力が出てくる。これと同じことで、学校も校長がきちんとその職員を取りまとめて、ベクトル合わせ

ができているところは、ものすごく力の差がある。

ただ、学校というのはトータルとして、そうした組織の職員みんながベクトルを合わせるといったことは、今までやってきていない。今、学校評価などで校長に目標設定シート、あるいは経営ビジョンを全部作らせ、その報告を受けている。また、それを全職員に4月に全部オープンにしているのだから、そういうことの中でベクトル合わせがだんだんできつつあると思う。もちろん校長の力量によって随分差が出てくると思う。

- ・ 学校も努力しているのは分かるが、ある大学の教員の声として、公立学校は最初から、「うちはもう通りっこないですから」といった進路指導の先生がいておかしいと。やはり郡部は、優秀な生徒が高知へ出て行くことが多いので、その後の空気をどう作っていくのか、自信をどうつけさせるかが大事ではないか。
- クラスの中でリーダー的な児童が私学へ抜けるから学級運営をやりにくくなるというのは、それもある面、事実である。しかしながら、そういう児童が抜けると、残った者の中で必ずリーダー格が育ってくる。

例えば追手前高校は、今年の春の試験は、東京大学にも浪人1人を含め2人入っているし、大阪大学にも現役が7人入っている。大学の進学、偏差値というだけで見れば県内では土佐高校が一番だが、二番目が追手前高校になっており、単年度だが、学芸高校を追い越している。また、小津高校や西高校なども、学力レベルが上がってきているので、公立中学校に行っても、そこから公立高校に行き、難関大学に行けるという道は多少広がってきたかなと思っている。

【知事】

- ・ 教育の問題は教育委員会だけの問題ではなくて、家庭の問題、経済・社会の問題、そういうことが全て関わる話だと思う。みんなで高知の子どもを大切に育てていくという姿勢が本当に大切である。
- ・ 学力の問題について言うと、実際それぞれ地域、地域によって千差万別で、実態を把握するということが大変難しい。このため、色々な所へ行って、どうすべきか生の声を聞いてもらえればと思う。「管理が強化されただけ」といった方もいたということだが、そういう意見もこういう場などで是非、共有できればいい。
- ・ また、小学校の学力は平均並みだというのが、応用問題だけ取り出したら高知県は低い。つまり、小学校時代の応用問題の学力が低いことが、中学校時代に響いてきているのだという気持ちは、やはり謙虚に持った方がいいと思う。
- ・ これは実際に、学力テストの点数を分析したらそういうことだった。実際、この問題は極めて根が深いと考えられるし、本腰を据えて頑張っていくということだと思う。

2 鳥インフルエンザへの対応について【危機管理部】

配布資料により危機管理部から概要説明があり、意見交換を行った。

3 その他（米国艦船の宿毛港湾への寄港、ジャパン・フラワー・フェスティバルについての報告）

【知事】

- ・ 先日、民生委員・児童委員の大会があり、そこに私も参加させていただき、意見交換をさせてもらったが、経済状況が厳しく、また高齢化が進み、一人暮らしの高齢者世帯が多い本県にとっては、こういった方々と連携することは極めて重要なことであると感じた。
- ・ このため、今度、情報共有や改善点の議論などを目的として、児童委員・民生委員さんの会と約2時間ぐらいいかけて、しっかりと意見交換をさせていただきたいと考えているので、教育長さんにも出席してもらおうとともに、何らかの形で関係してくると思われる部は、是非、積極的に参加をしていただければと思う。